

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 2 2 3 号	
件 名	新潟市の1兆30億円の莫大な借金を減らし財政の健全化を図ることについて	
要 旨	<p>現在の新潟市の財政は、約1兆30億円の借金を抱える赤字倒産一歩手前の状況になっています。1兆円の借金は、毎年100億円返しても100年もかかる莫大な借金です。</p> <p>平成30年9月末で、79万3,450人の市民1人当たり126万円、33万8,402世帯の1世帯当たり296万円もの借金です。金利を年0.1%で計算して、毎年10億円もの利息を支払っていることとなります。</p> <p>平成30年度末での財政状況は、市債残高1兆30億円です（財務課資料より）。内訳は、一般会計6,002億円、特別会計100億円、企業会計3,928億円。なお、一般会計は、一般家庭に置きかえるなら生活費に当たります。その新潟市の生活費の借金が6,002億円です。平成30年度の一般会計予算は3,802億円です。一般会計の借金が年間予算をはるかに超えており、一般家庭なら破綻です。</p> <p>また、基金残高は、10年前の315億円から33億円に激減し底をつきそうです。この状態から、新潟市が、財政破綻した夕張市に続く第二の夕張市に陥らないために、一日も早い財政の健全化を必要とします。</p> <p>参考：過年度末の市債残高の推移（新潟市ホームページから）</p> <p>平成21年度8,305億円  平成22年度8,469億円  平成23年度8,785億円  平成24年度9,042億円  平成25年度9,343億円  平成26年度9,617億円  平成27年度9,737億円  平成28年度9,959億円  平成29年度1兆30億円</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>	
付 託 年月日 委員会	平成 31 年 3 月 7 日	第 1 項 第 2 項 } 総務常任委員会
受 理	平成 31 年 2 月 27 日	第 5 9 1 号

過年, 1955年に, 見附市出身の参議院議員であった北村一男氏が, 疲弊した新潟県の財政と経済の再建を掲げて新潟県知事に立候補, 当選して, 2期にわたり新潟県を立て直した業績が残されています。これを教訓に, 新潟市も市長をトップとする行政と, 行政のチェック機能としての議会, 議員が, その責任を果たして, ともに協力して早急に財政の健全化を進めることを求め, 以下について陳情いたします。

記

- 1 新潟市のあらゆる分野の事業の総点検と見直しをして, 財政の健全化を図ること。
- 2 必要により, 市長を初めとする特別職職員と, 全職員にも財源確保に対して身を切る協力を求め, 破綻新潟市にならないように, 財政の健全化を図ること。